

# WilComm

WilComm/400 Ver. 8.03 & WilComm 4.8

## Training Manual Lesson-2

## ウィルコム の 起 動 と 停 止

Manual No - TRN052 (Last Update 2012/06/18)

WilComm V8.03 & 4.8

© Copyright 2012



本解説書は、ウィルコム「WilComm/400 Ver8.03 & PC WilComm4.8」を初めてお使いになるシステム管理者向けトレーニング・マニュアルです。

Lesson-2 では、ホスト(IBM i, iSeries, AS/400)及び PC サーバーにおけるウィルコムの起動方法と停止方法について解説しています。

(目的)

1. ホスト側ウィルコムの起動/停止ができるようになる。
2. PC サーバー側ウィルコムの起動条件を理解する。
3. PC サーバー側ウィルコムの起動/停止ができるようになる。

(目次)

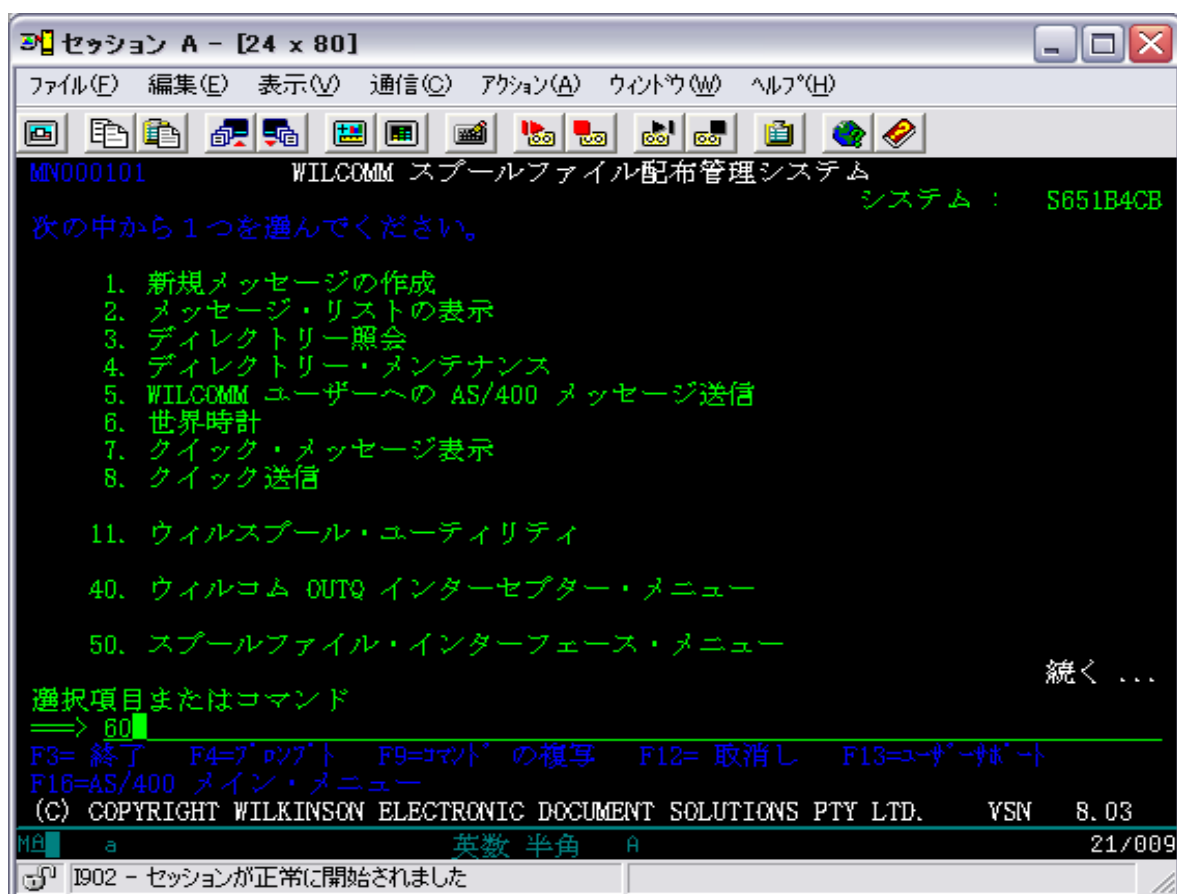
1. ホストのウィルコム起動方法	3
2. ホストのウィルコム停止方法	10
3. PCサーバーのウィルコム起動と停止	15
4. 補足 (対話ジョブとしてWilCommを使用する場合)	23

## [ 1. ホストのウィルコム起動方法 ]

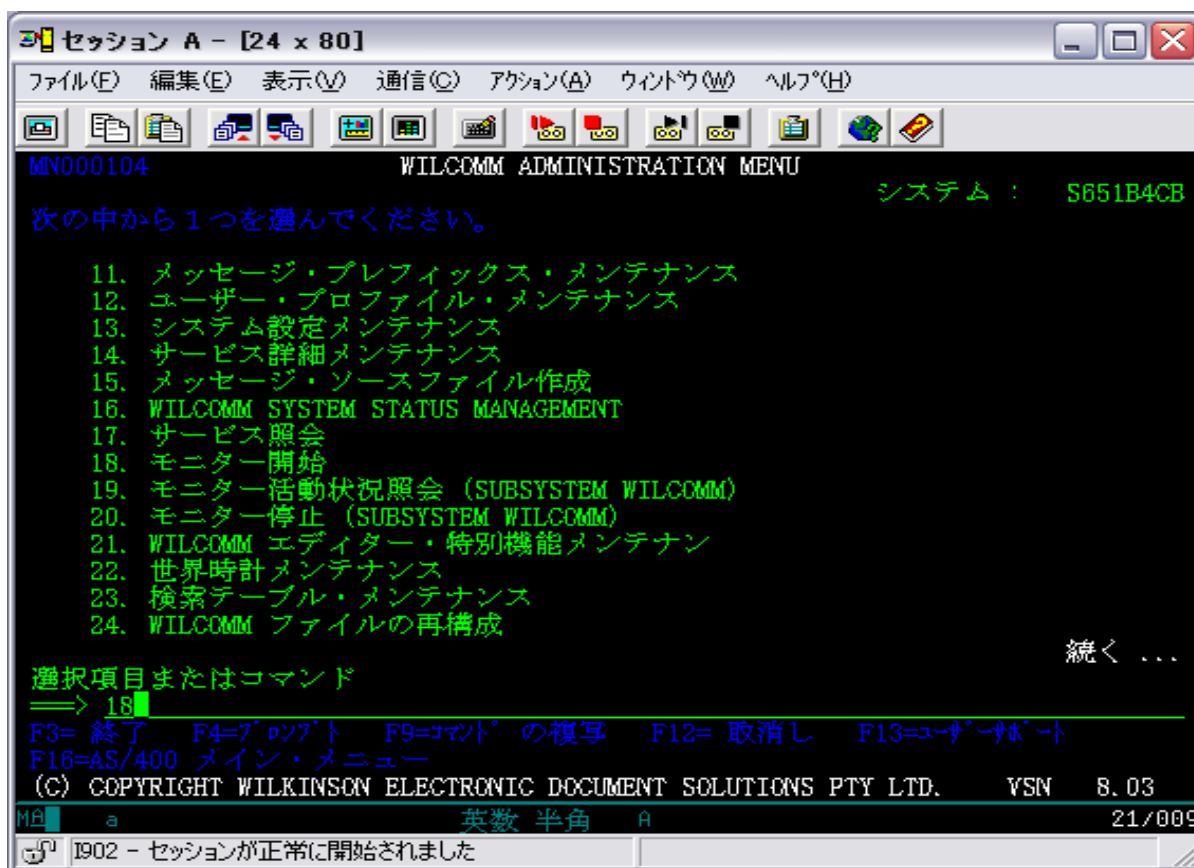


QSECOFR でサインオンして、GO W を実行します。

60 : WILCOMM ADMINISTRATION MENU を選択します。



18： モニター開始 を選択します。



ウィルコムの起動を自動化する場合は、**システム値**：QSTRUPPGM で設定されているプログラムの**最終行**に次頁のコーディングで作成した CL プログラムを追加してください。

基本 CL ソースが、ライブラリ： WILCOMM にありますので、ご使用いただけます。

**SRCFILE(WILSAMPLES) LIB(WILCOMM) MBR(WILSTART)**

コンパイルはどのライブラリでもかまいませんが、管理上ライブラリ： WILCOMMCHG をお勧めいたします。

**<<注意>>** ソースファイル： WILCOMM/WILSAMPLES が無いか或いは、メンバー： WILSTART が無い場合は、マニュアルサイトのカテゴリ「Down Load」より、ソースファイルをダウンロードしていただくことが可能です。

「ウィルコム・起動/停止バッチプログラムソース For Ver.8.03」 DOW022 をダウンロード/解凍し、解凍されたフォルダ「DOW022」内にありますマニュアル「ウィルコム・起動/停止バッチプログラムソース・アップロード手順書」(DOW022.pdf)に従ってホスト にアップロードしてください。

ウィルコム自動スタート・プログラム・コーディング・サンプル(WILSTART)

```

PGM
DCL      VAR(&ENROLLED) TYPE(*LGL)
DCL      VAR(&UMSGQ) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&UMSGQL) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&JOB) TYPE(*CHAR) LEN(10)

/*
RTVJOBA  JOB(&JOB)
*/

CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBL  LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBL  LIB(WILCOMM)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBL  LIB(QTEMP)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
CALL     PGM(WPDBCSIC)
CALL     PGM(WP36) PARM(&ENROLLED &UMSGQ &UMSGQL)
/*
IF      COND(&ENROLLED) THEN(DO)
SNDDMSG MSG('YOU ARE NOT ENROLLED IN WILCOMM !') +
        TOMSGQ(&JOB)
GOTO    CMDLBL(RESET)
ENDDO
*/
CALL     PGM(WP014CQSTR)          /*FOR QSTRUP */
/******CALL     PGM(WP014CBSTR)          OTHER BATCH*/
/*
RESET:   CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962) OPTION(*REMOVE)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMM)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
*/
RETURN
ENDPGM

```

スタートアップ・プログラムに上記の通りコーディングした CL プログラムを組み込んでウィルコムを起動した場合は、メニューから 18 を実行する必要がなくなります。

上記例は、ウィルコムを日本語環境で使用する場合の例です。英語環境でご使用になる場合は、赤字部分のライブラリ指定を「WILQ2938」に修正してからコンパイルしてください。

ホストの IPL 時に起動します「QSTRUP」プログラム内で実行することができます。その場合、ウィルコムは TCP/IP の各種機能が開始されていることが前提となりますので、「QSTRUP」プログラムの最終ステップに組み込むようにしてください。

「QSTRUP」プログラム以外のバッチ・プログラムから呼び出す場合は、「WP014CQSTR」の部分を「WP014CBSTR」に変更してプログラムを作成してください。「QSTRUP」プログラム以外のバッチ・プログラムとは、夜間のバックアップ・プログラム等でウィルコムを一旦停止した後、再度自動起動したいような場合です。

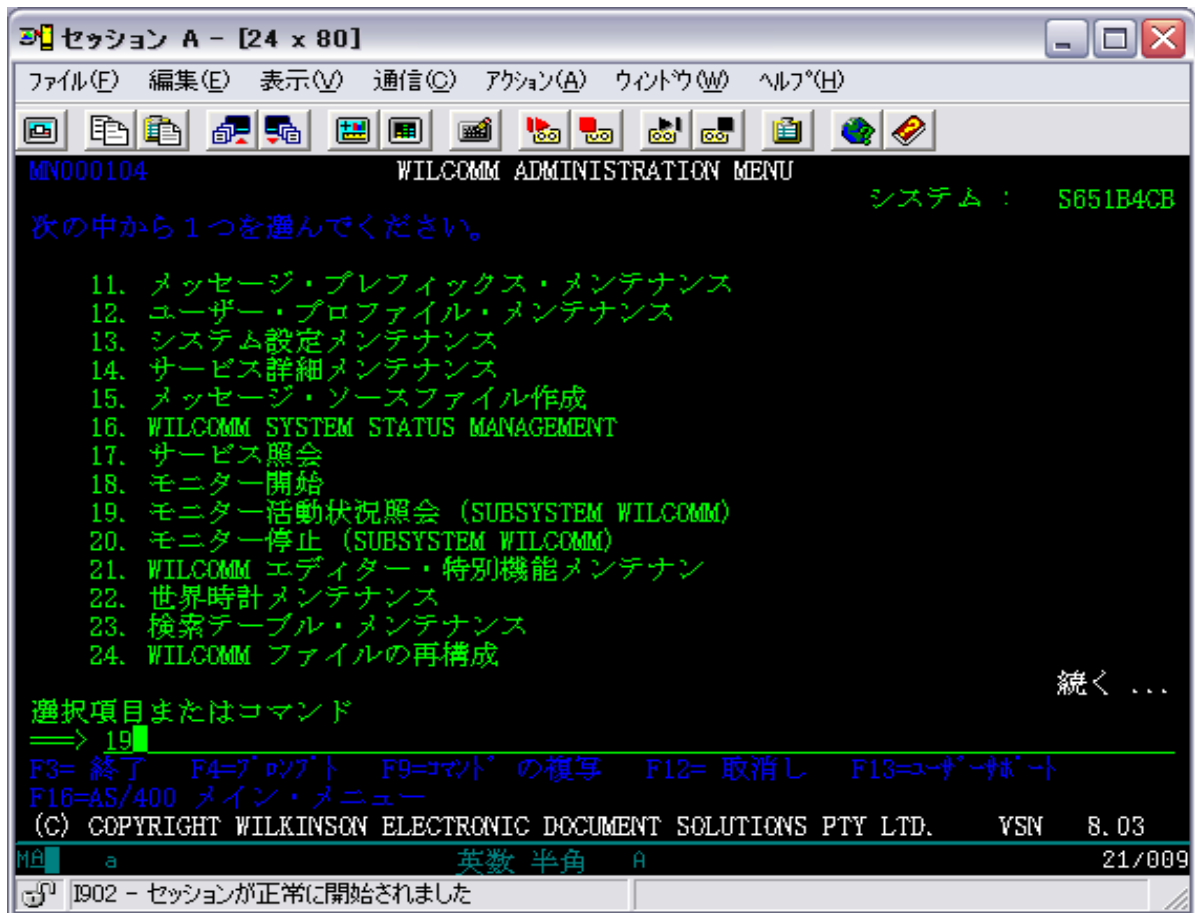
#### <<QSTRUP で実行する際の注意点>>

PGM: WILSTART では、まず最初にプログラムの実行ユーザーのチェックが行われます。PGM: WILSTART を実行するユーザーが、ウィルコムに登録されたユーザーであるか否かがチェックされます。認可のないユーザーが実行している場合は、前ページの  部分のロジックが処理され、ウィルコムはスタートされずに PGM: WILSTART は終了してしまいます。QSTRUP における実行ユーザーは、「QPGMR」ですので、QSTRUP で PGM: WILSTART を実行する場合は、ウィルコムにユーザー「QPGMR」が登録されている必要があります。ウィルコムにユーザー「QPGMR」を登録したくない場合は、ウィルコムに既登録のユーザーを指定して QSTRUP から PGM: WILSTART をサブミットするようにしてください。(SBMJOB コマンドは、サブミットするジョブの実行ユーザーをパラメータで指定できます)

ウィルコムのユーザー登録につきましては、「Lesson-3」を参照してください。

## 起動状況の確認

アプリケーション・コントロール・メニューで、19：モニター活動状況照会 を実行します。





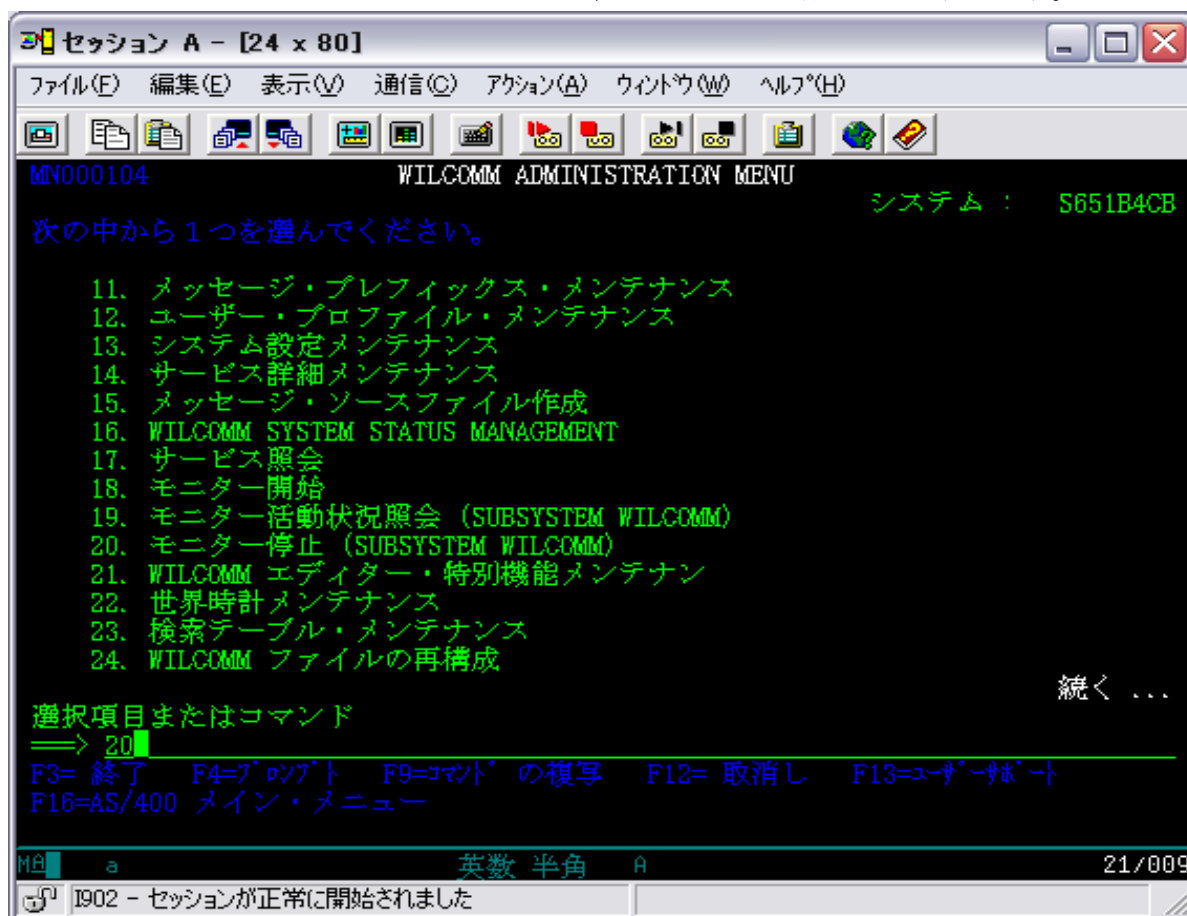
ウィルコムの子システム照会画面が表示されます。



ウィルコムのすべてのジョブは、サブシステム : WILCOMM 配下で起動しています。  
お客様のウィルコム環境によってジョブ表示内容は異なります。

## [ 2. ホストのウィルコム停止方法 ]

アプリケーション・コントロール・メニューで、20：モニター停止 を実行します。



オプション = \*NORMAL、遅延時間 = \*DEFAULT で実行してください。



OPTION=\*NORMAL は、その時点で処理中のジョブが正常終了するのをチェックしながら停止処理を行います。

ホストのバックアップや IPL 時等にウィルコムを自動停止する場合は、以下の点に注意してください。

1. バックアップや IPL の時間はウィルコムを使用していない時間帯を選んでください。
2. ウィルコムを自動停止する場合は、13 頁のコーディングで作成した CL プログラムを実行してください。  
基本 CL ソースが、ライブラリ： WILCOMM にありますので、ご使用いただけます。

**SRCFILE(WILSAMPLES) LIB(WILCOMM) MBR(WILQUIT)**

コンパイルはどのライブラリでもかまいませんが、管理上ライブラリ： WILCOMMCHG をお勧めいたします。

**(P5 参照)**

ウィルコムは**午前 0 時**に不要データを削除するページ処理が自動的に起動します。この処理が実行中に **PWRDWN SYS が実行されることは好ましくありません**。最悪の場合データベースの損傷に至る場合があります。またページ処理にかかる時間はお客様のデータ量・マシン性能等によって異なりますので、午前 0 時頃に PWRDWN SYS を実行される場合は、**午前 0 時前に**プログラム(WILQUIT)を実行してウィルコムを停止しておいてください。

### ウィルコム・ページ処理の遅延方法

何らかの理由で午前0時に起動するページ処理を遅延させる必要がある場合は、コマンドラインから以下のコマンドを実行してください。

```
CRTDTAARA DTAARA(WILCOMMCHG/WPPRGTAB) TYPE(*CHAR) LEN(80)  
VALUE(' DLYJOB RSMTIME(999999)')
```

RSMTIME の値はページ処理を実行する時間を設定してください。例えば 120000 とするとウィルコムのページ処理は午後 12 時に起動するようになります。ウィルコムのページ処理は午前0時の実行時にこのデータエリアを参照して、そこに設定されている値のコマンドを先に実行します。

(注)ウィルコムが新規インストールされた時点では、データエリア: WILCOMMCHG / WPPRGTAB は存在していません。以下の要領でデータエリアを作成してください。

```
CRTDTAARA DTAARA(WILCOMMCHG/WPPRGTAB) TYPE(*CHAR) LEN(80)
```

ウィルコム自動終了・プログラム・コーディング・サンプル(WILQUIT)

```

PGM
DCL      VAR(&ENROLLED) TYPE(*LGL)
DCL      VAR(&UMSGQ) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&UMSGQL) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&JOB) TYPE(*CHAR) LEN(10)

/*
RTVJOBA  JOB(&JOB)
*/

CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBLE LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBLE LIB(WILCOMM)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBLE LIB(QTEMP)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
CALL     PGM(WPDBCSIC)
CALL     PGM(WP36) PARM(&ENROLLED &UMSGQ &UMSGQL)
/*

IF      COND(&ENROLLED) THEN(DO)
SNDMSG  MSG('YOU ARE NOT ENROLLED IN WILCOMM !') +
        TOMSGQ(&JOB)
GOTO    CMDLBL(RESET)
ENDDO
/*

WCSHTDWN TYPE(*NORMAL)
/*

RESET:  CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962) OPTION(*REMOVE)
MONMSG  MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMMD)
MONMSG  MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMM)
MONMSG  MSGID(CPF0000)
/*

RETURN
ENDPGM

```

上記の通りコーディングした CL プログラムを組み込んでウィルコムを終了した場合は、メニューから「20: モニター停止」を実行する必要がなくなります。上記例は、ウィルコムを日本語環境で使用する場合の例です。英語環境でご使用になる場合は、赤字部分のライブラリ指定を「WILQ2938」に修正してからコンパイルしてください。

**WCSHTDWN** は、ウィルコムのコマンドです。従いまして、コンパイルする際にはライブラリ・リストにライブラリ : WILCOMM を追加してください。

#### <<実行時の注意>>

PGM: **WILQUIT** では、まず最初にプログラムの実行ユーザーのチェックが行われます。PGM: **WILQUIT** を実行するユーザーが、ウィルコムに登録されたユーザーであるか否かがチェックされます。認可のないユーザーが実行している場合は、前ページの  部分のロジックが処理され、ウィルコムは停止されずに PGM: **WILQUIT** は終了してしまいます。実行ユーザーをウィルコムに登録するか、或いは既登録ユーザーで実行するようにしてください。

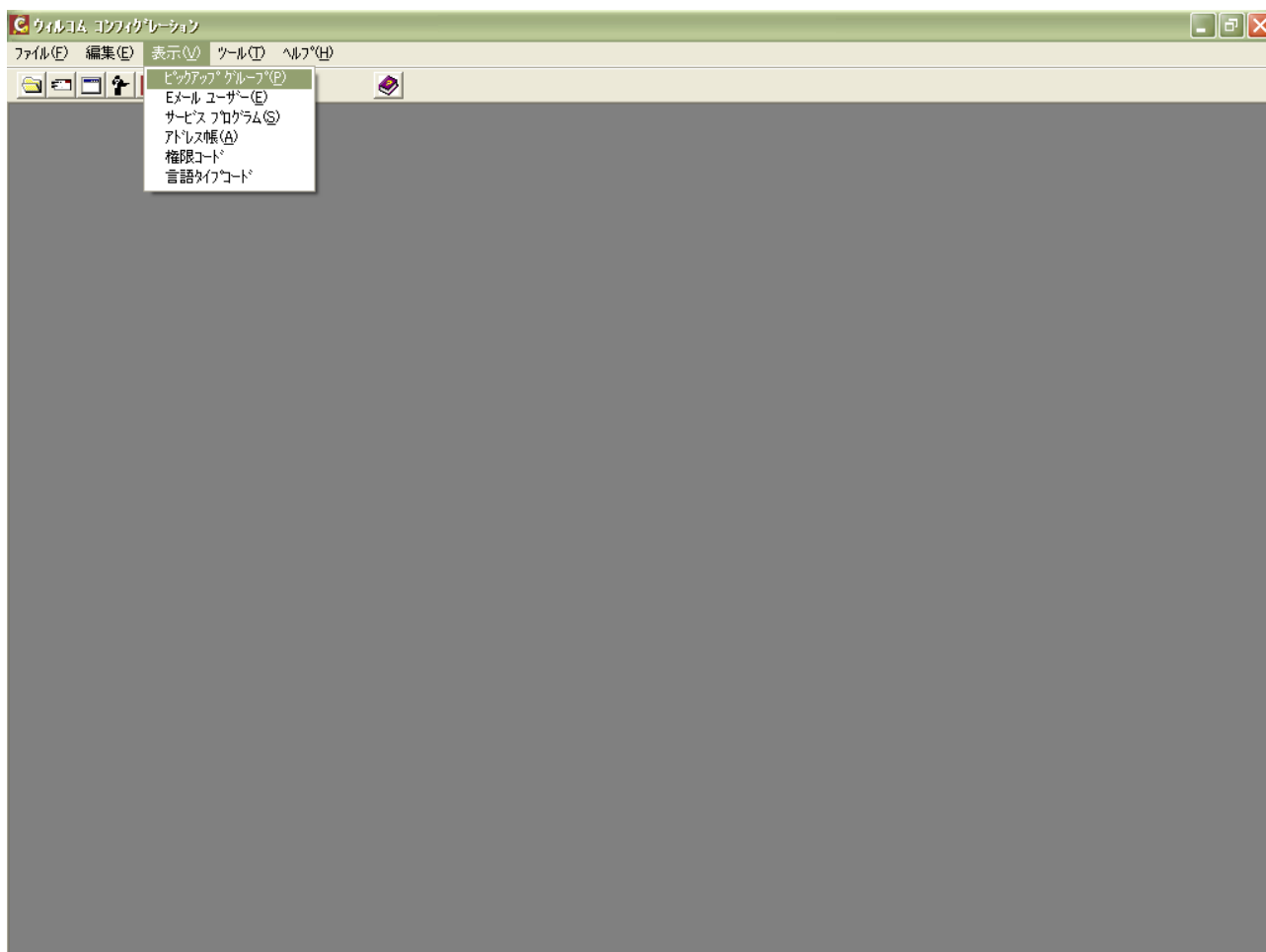
ウィルコムのユーザー登録につきましては、「Lesson-3」を参照してください。

### [ 3. PC Server のウィルコム起動と停止 ]

PC Server のウィルコムを起動する前にネットワーク・ドライブが接続されていることを確認してください。このネットワーク・ドライブは、ホストの [/WILKINSON/SI](#) フォルダ(共有名:wilkinsn)に接続されています。ドライブ名(ここでの例は I ドライブ)は、Wilcomm Config での設定によって決まっております。ドライブ名が不明な場合は、以下の要領で Wilcomm Config を起動して確認してください。



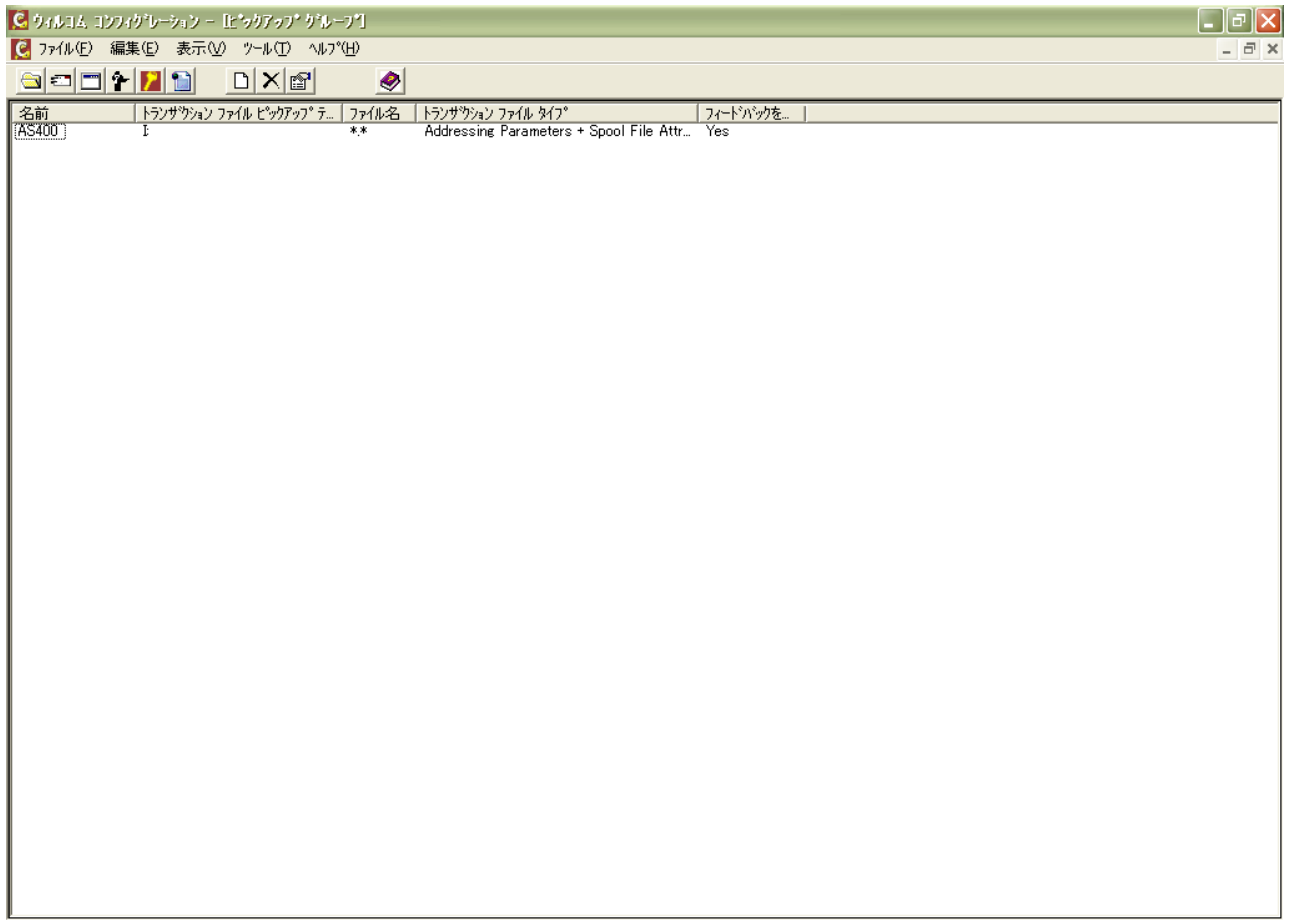
「スタート」 → 「プログラム」 → 「Wilkinson」 → 「Wilcomm 4」 → 「Wilcomm Config」 で起動します。



ツールバーの「表示」 → 「ピックアップグループ」を選択します。

#### ピックアップグループとは・・・

PC 側のウィルコム・モジュールが、何処のフォルダから処理対象データを受け取るかを指定する定義です。ホスト側で処理されたスプールデータを、何処から受け取るかを定義します。



ホストからのデータ・ピックアップ定義をダブルクリックします。



## 「ピックアップ オプション」 タブ

The screenshot shows the 'Pickup Group Edit' dialog box with the 'Pickup Options' tab selected. The 'Pickup Group' and 'Local Job Directory' fields are both set to 'AS400'. The 'Pickup Options' section includes a 'File Extraction' area with a 'Pickup Directory' field containing 'I', a 'File Name' field with '\*\*', and a 'File Format' dropdown menu set to 'Transaction files contain address, parameters and spool file attributes'. There are also 'Reference' and 'Details' buttons. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

PC Server の Wilcomm は、ホストからのデータを上記ドライブから受け取ります。  
ここでのドライブ名とネットワーク・ドライブ名は一致している必要があります。

## 「言語」 タブ

The screenshot shows the 'Pickup Group Edit' dialog box with the 'Language' tab selected. The 'Pickup Group' and 'Local Job Directory' fields are both set to 'AS400'. The 'Language' section includes a 'Pickup Folder Language Information' area with a radio button selected for 'Default Language' and a dropdown menu set to '<<Default Language>>'. There is also an option for 'Compare language type codes by file extension'. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

## 「送信添付情報」タブ

The screenshot shows the 'Pickup Group Edit' dialog box with the 'Transmission Attachment Information' tab selected. The 'Pickup Group' and 'Local Job Delimiter' fields are both set to 'AS400'. The 'Host to be added to email' section contains a text box for the 'Pickup Delimiter' with the value '[\*ATTACH' entered and highlighted by a red rectangle. The 'OK' and 'Cancel' buttons are visible at the bottom.

ピックアップグループ編集

ピックアップグループ: AS400

ローカル作業デリミタリ: AS400

ピックアップオプション 言語 送信添付情報 送信結果 メール通知フィッシュック

ホストからメールに添付されるファイル

ピックアップ デリミタリ: [\*ATTACH

OK キャンセル

## 「送信結果」タブ

The screenshot shows the 'Pickup Group Edit' dialog box with the 'Transmission Results' tab selected. The 'Pickup Group' and 'Local Job Delimiter' fields are both set to 'AS400'. The 'Host return execution results' section has a checked checkbox for 'Create result files for the following delimiters'. The 'File extension' field is empty. The 'Results Delimiter' text box contains the value '[\*RESULTS' and is highlighted by a red rectangle. The 'OK' and 'Cancel' buttons are visible at the bottom.

ピックアップグループ編集

ピックアップグループ: AS400

ローカル作業デリミタリ: AS400

ピックアップオプション 言語 送信添付情報 送信結果 メール通知フィッシュック

ホストへ返す実行結果

以下のデリミタリへ、実行結果のファイルを作成

ファイル拡張子:

デリミタリ: [\*RESULTS

OK キャンセル

## 「ウィルノーティファイ セッティング」タブ

The screenshot shows a Windows dialog box titled "ピックアップグループ編集" (Pickup Group Edit). It has a close button (X) in the top right corner. The dialog is divided into several sections:

- At the top, there are two text input fields: "ピックアップグループ:" (Pickup Group) containing "AS400" and "ローカル作業ディレクトリー:" (Local Work Directory) also containing "AS400".
- Below these are four tabs: "ピックアップオプション" (Pickup Options), "言語" (Language), "送信添付情報" (Send Attachment Information), "送信結果" (Send Results), and "ウィルノーティファイセッティング" (Will Notify Settings), which is currently selected.
- The "Will Notify Settings" tab contains a section titled "ウィルコム サービス用 送信メールの通知" (WillCom Service Send Mail Notification). It has four rows of radio button options:
  - WilPrint:  失敗のみ (Failure only),  すべて (All),  無し (None)
  - WilMail:  失敗のみ (Failure only),  すべて (All),  無し (None)
  - WilFax:  失敗のみ (Failure only),  すべて (All),  無し (None)
  - WilFile:  失敗のみ (Failure only),  すべて (All),  無し (None)
- Below this is a section titled "Eメール通知用 Eメール アドレス" (E-mail Notification E-mail Address). It has a text input field for the address and a dropdown menu for "Eメール アドレスの解決方法:" (E-mail Address Resolution Method) set to "常に通知メッセージを定義されたEメール アドレスへ送信" (Always send notification messages to the defined e-mail address). There is a "詳細..." (Details...) button next to the dropdown.
- At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

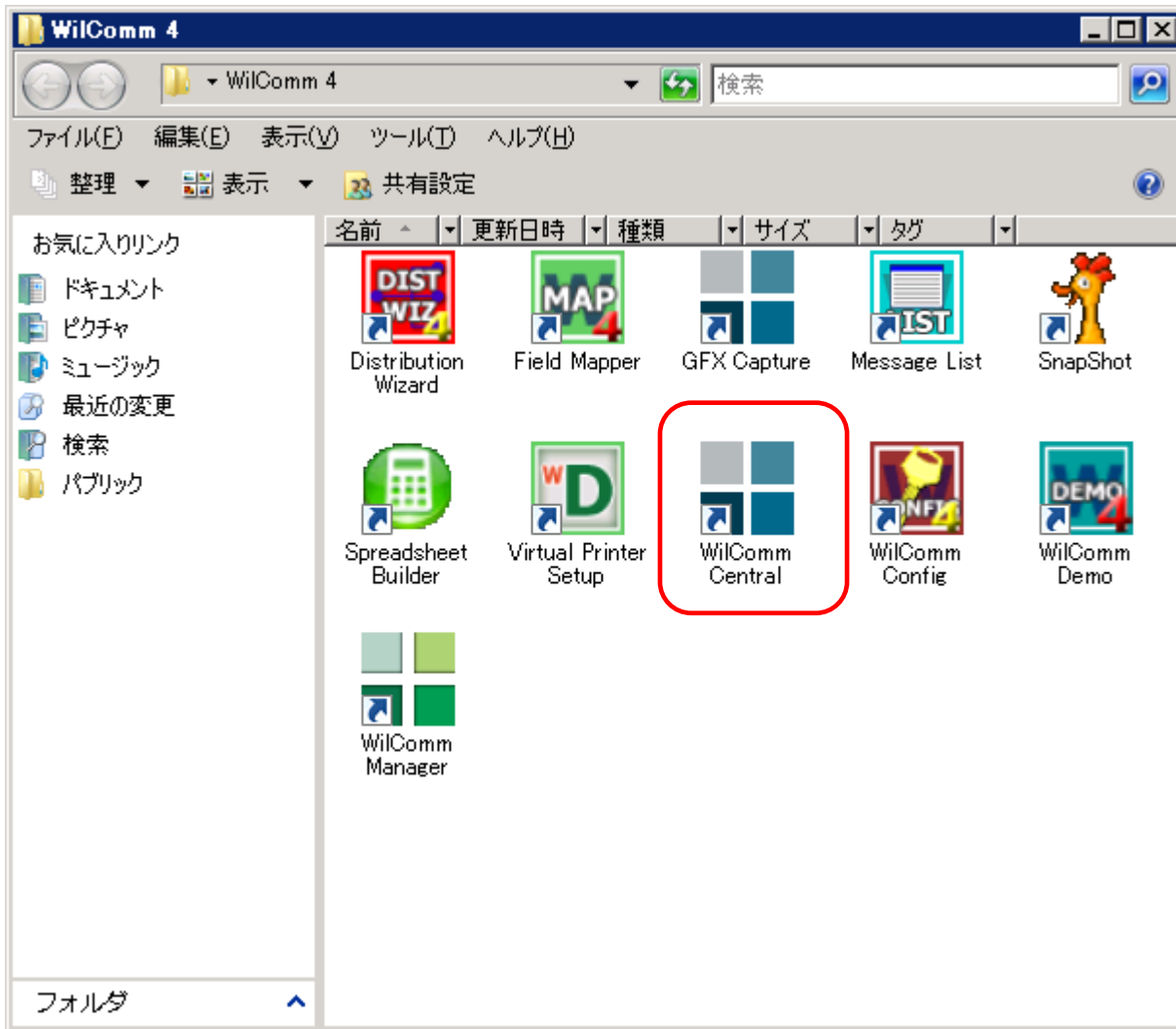
Windows 環境から ホストの共有フォルダをネットワーク・ドライブとして割当てするためには、ホストのオペレーティングシステムが提供するネットサーバーサービスを使用いたします。（\*ネットサーバーについてはオペレーティングシステムのマニュアルをご参照ください。）

(ネットワーク・ドライブが接続されない場合)

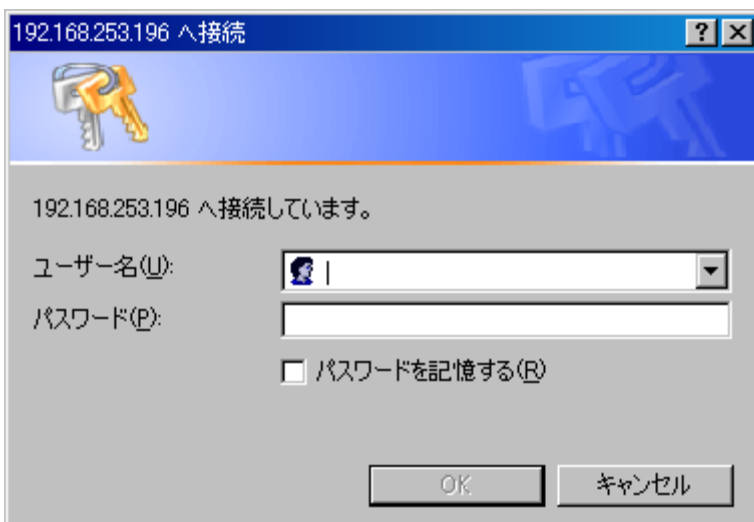
ホストのコマンド: STRTCPSVR SERVER(\*NETSVR) によりネットサーバーを起動します。

それでも接続されない場合は、ホストのネットワーク設定が正しくないか、ホストの障害などが考えられますので、IBM もしくは IBM 特約店にご相談ください。

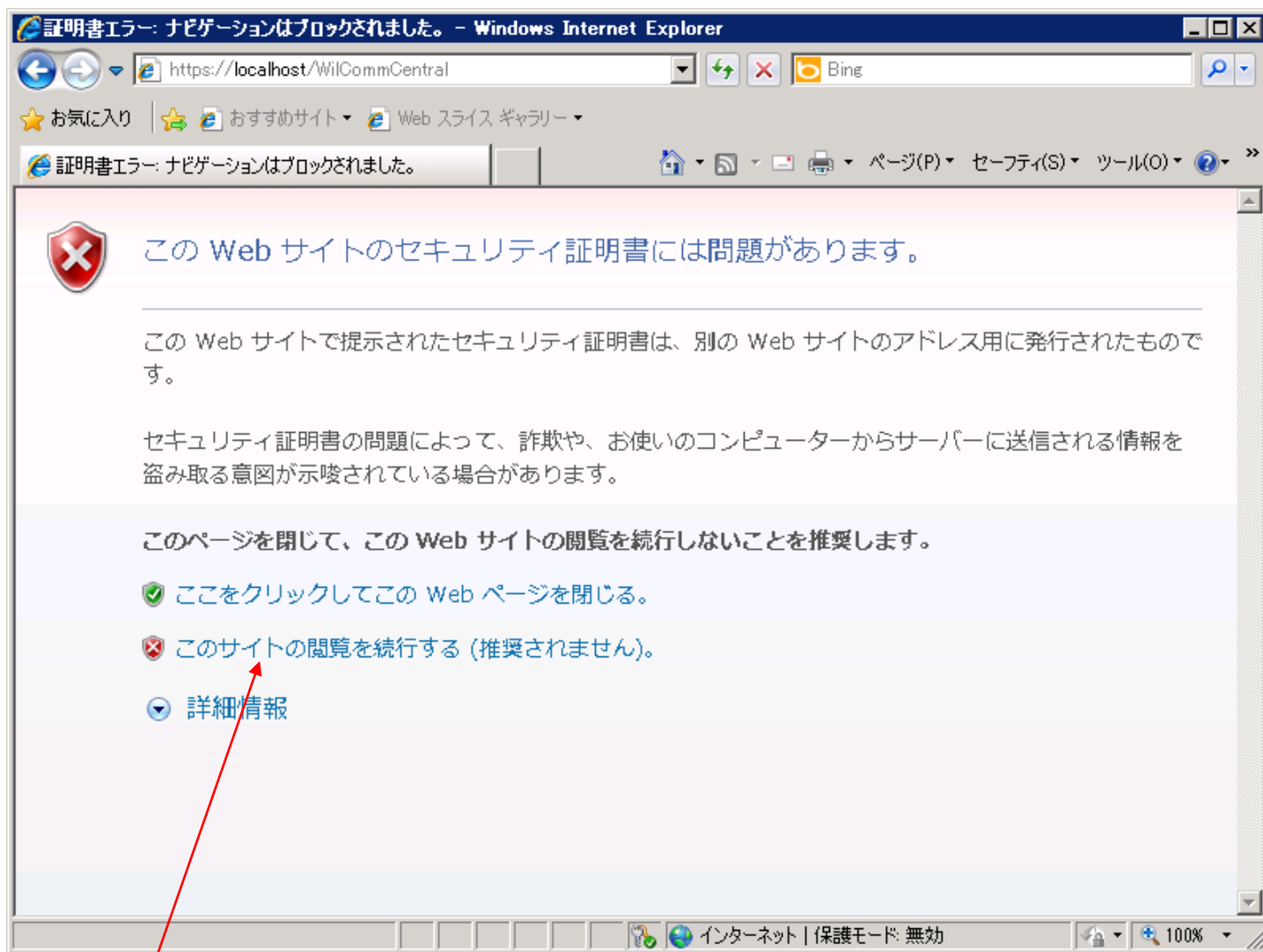
ネットサーバーは、ホスト上のフォルダを共有フォルダとして Windows ネットワークに対して公開するサービスです。



デスクトップにある WilComm 4 フォルダを開き、WilComm Central を実行します。

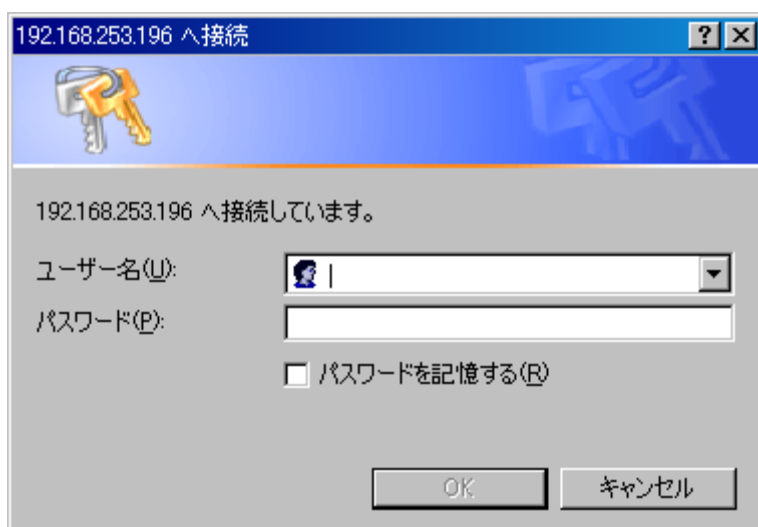


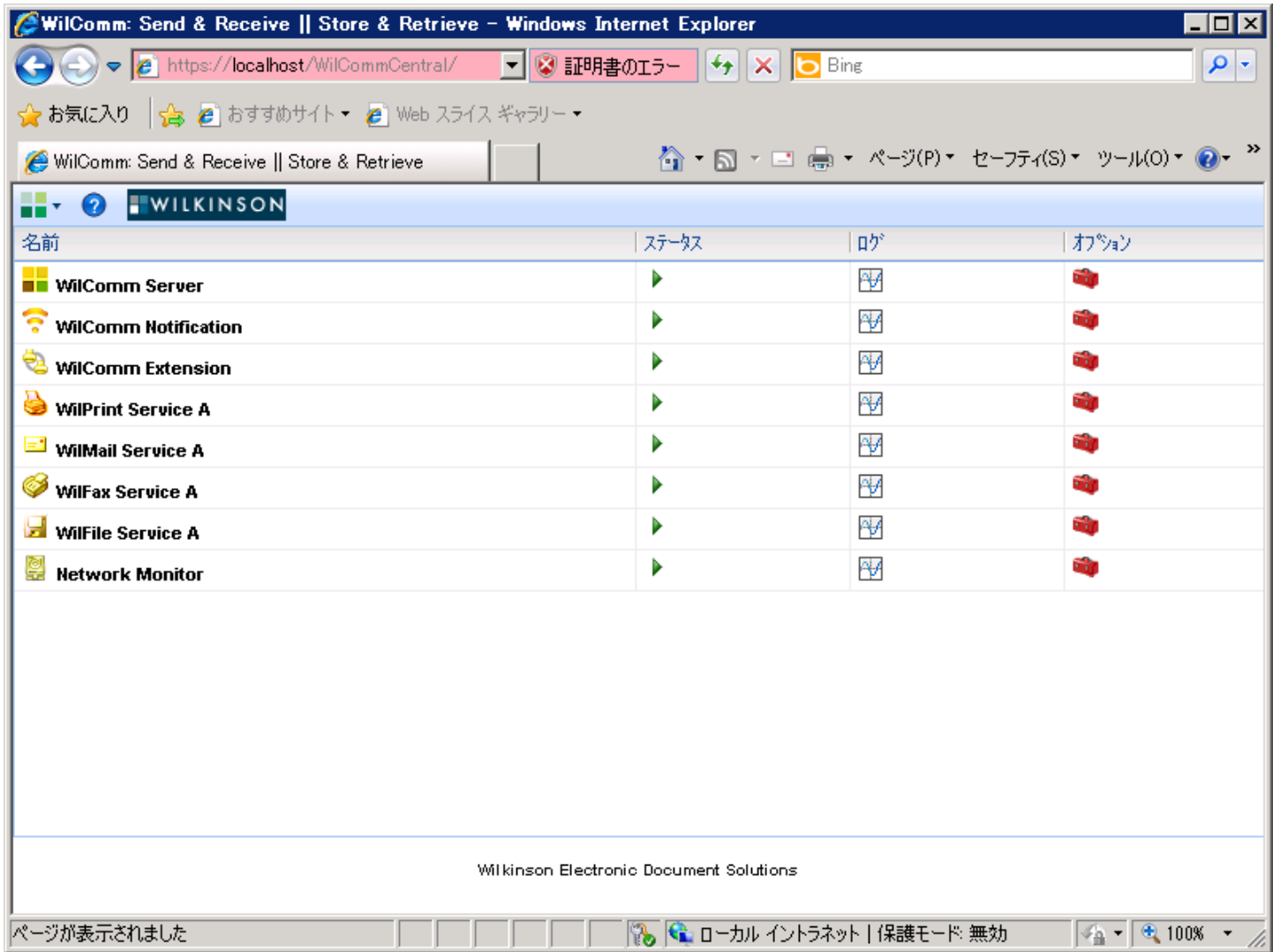
WilComm の管理画面へアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力します。  
通常は、WilComm 管理ユーザー(wilcomm)とそのパスワードになります。



このサイトの閲覧を続行する をクリックします。

環境によっては、再度ユーザーとパスワードの入力を要求されますので、入力して OK ボタンを押します。





ステータス欄に、各サービスの活動状態が表示されます。

この画面の実行には、インターネットエクスプローラー7.0以上または、ファイアーフォックス3.0以上が必要です。

#### [ステータスの状態]

- ▶ 停止しています。このアイコンをクリックする事で、開始できます。
- || 活動中です。 ● アイコンをクリックすると、停止できます。
- 📄 ログの欄をクリックすると、活動ログを参照することができます。
- 🔧 オプションの欄をクリックすると、各サービスの設定を行う事ができます。

WilCommのサーバーへアクセス可能なPCからも、ブラウザで、管理画面へアクセスする事ができます。

クライアントPCからWilCommの管理画面を開くには、以下のリンクへアクセスしてください。

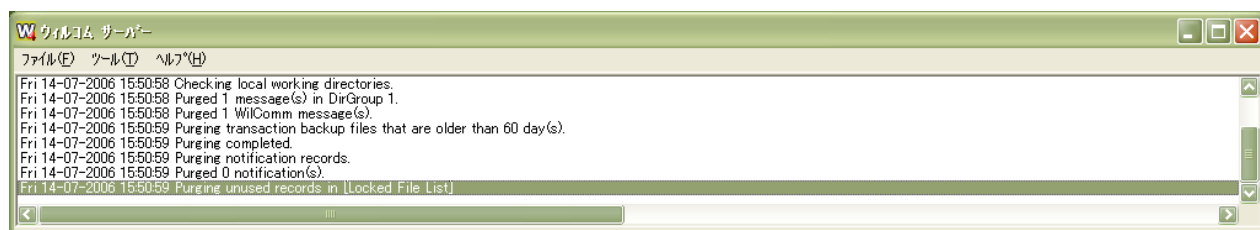
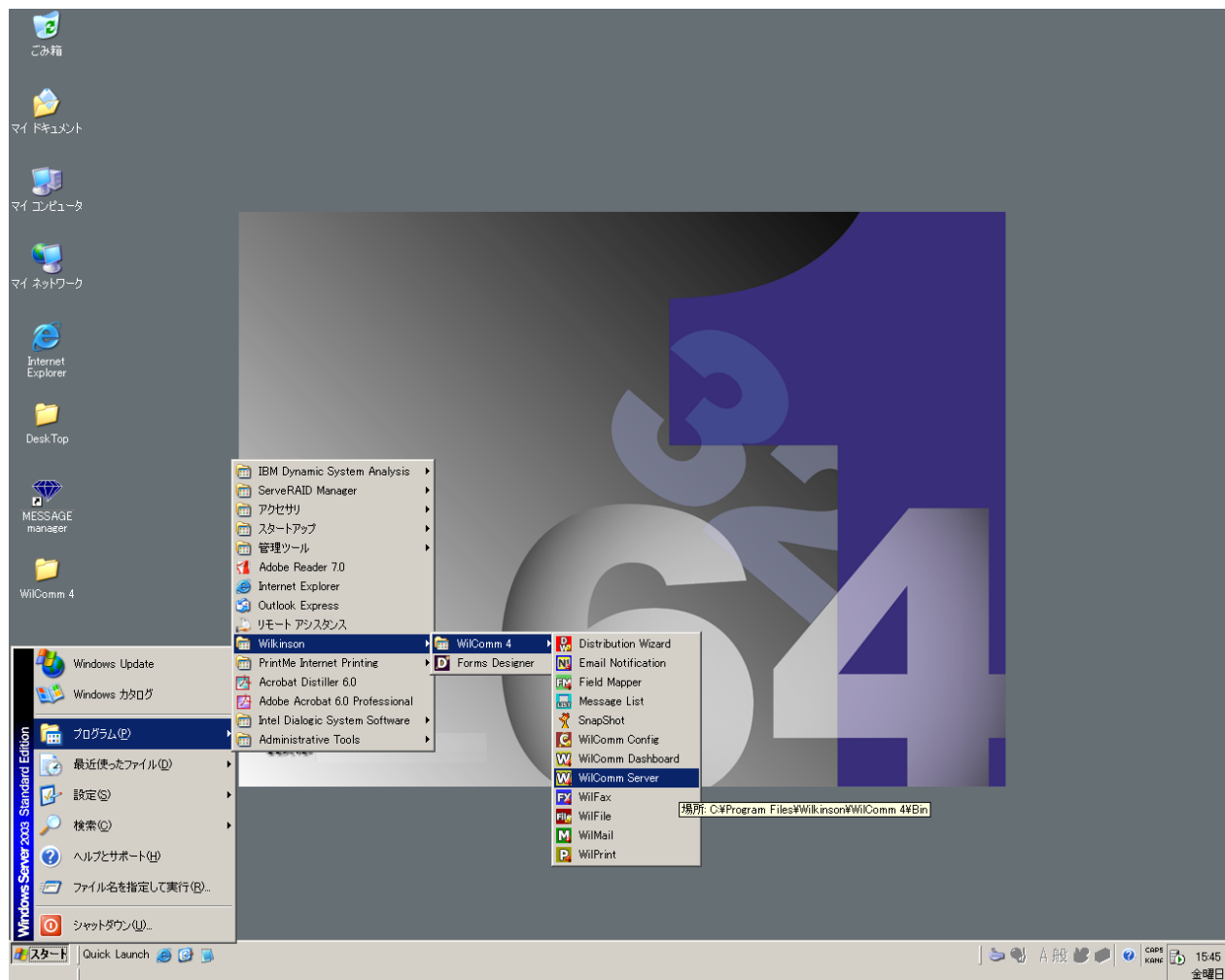
<http://サーバーのIPアドレス/wilcommcentral/>

## [ 4. 補足 対話ジョブとして WilComm を使用する場合 ]

### PC Server の威尔コム起動方法



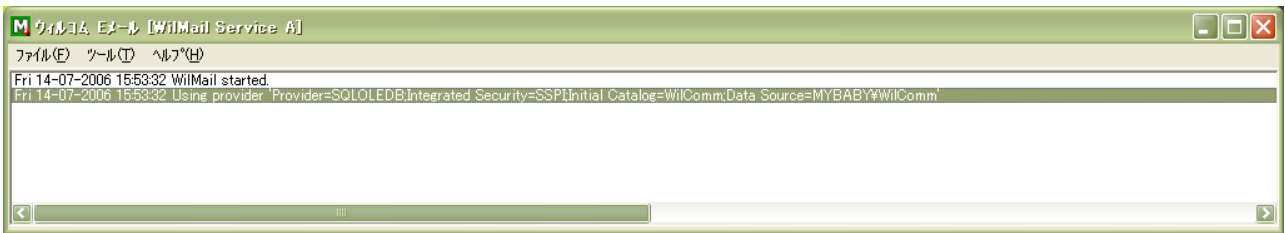
「スタート」 → 「プログラム」 → 「Wilkinson」 → 「Wilcomm 4」 → 「Wilcomm Server」 を起動します。



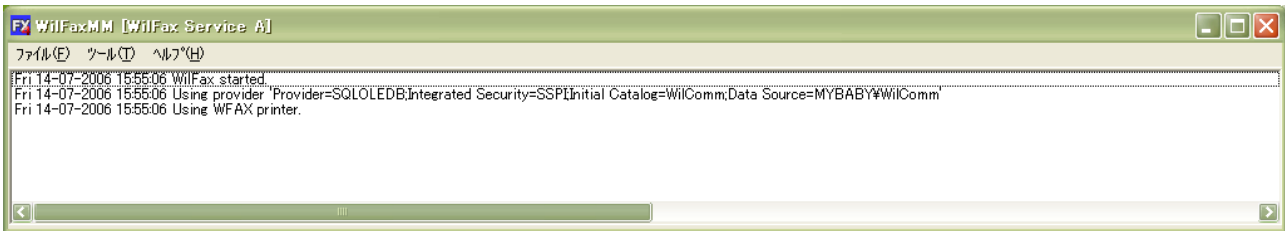
以下、ご購入いただきましたライセンスの中からご使用になりたいサービスを起動します。



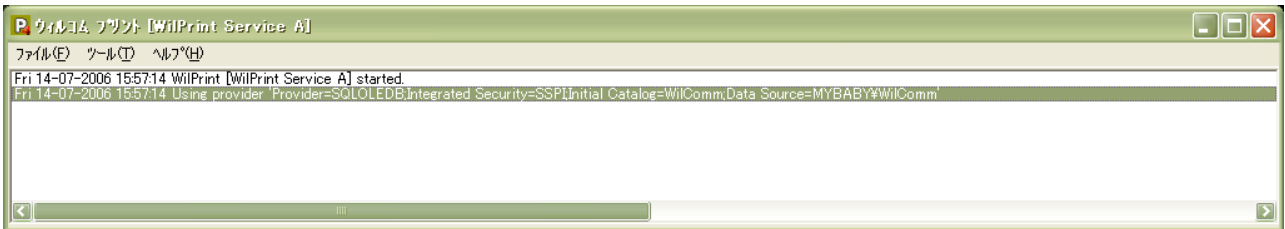
「スタート」 → 「プログラム」 → 「Wilkinson」 → 「Wilcomm 4」 → 「WilMail」 を起動します。



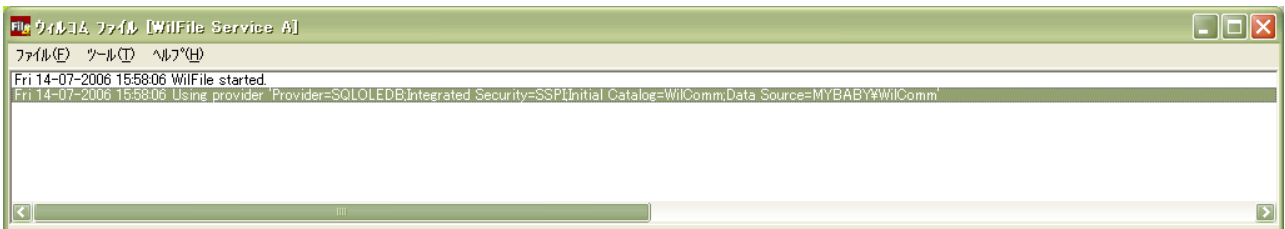
「スタート」 → 「プログラム」 → 「Wilkinson」 → 「Wilcomm 4」 → 「WilFax」 を起動します。



「スタート」 → 「プログラム」 → 「Wilkinson」 → 「Wilcomm 4」 → 「WilPrint」 を起動します。



「スタート」 → 「プログラム」 → 「Wilkinson」 → 「Wilcomm 4」 → 「WilFile」 を起動します。





ウィルコム の起動を自動化するために、Windows のスタートアップ・フォルダを使用することが可能です。Wilcomm インストール CD「WilComm 4」にあります以下の2つのファイルをウィルコムのフォルダにコピーしてください。

②CDROM Drive¥WilComm\_JP¥Utilities¥WilComm Start.bat

②CDROM Drive¥WilComm\_JP¥Utilities¥HOLD!.bat

コピー先：C:¥Program Files¥Wilkinson¥WilComm 4¥Bin

WilComm Start.bat を右クリックでプロパティを表示し、属性「読み取り専用」になっていた場合は、チェックをはずしてください。

編集するために、右クリックで「編集」を選択してください。

WilComm Start.bat の内容は次頁の通りです。

```
call Hold!.bat 10
@Echo ***** Drive Mapping *****
Net use I: ¥¥192.168.0.1¥WILKINSON WILCOMM /user:192.168.0.1¥WILCOMM /persistent:no

@Echo ***** Start WilComm Server *****
start WilComm

@Echo ***** Start WilComm Mail *****
start WilMail

@Echo ***** Start WilComm Print *****
start WilPrint

@Echo ***** Start WilComm File *****
start WilFile

@Echo ***** Start WilComm Fax *****
start WilFax

@Echo ***** Start WilComm Notify *****
start WilNotify
```

ネットワークドライブの再接続 / Wilcomm Server / WilMail / WilPrint / WilFile/ WilFax の順に起動するようになっています。ご購入いただきましたライセンス及び自動化したいモジュールをご検討いただいた上で、**不要な行は削除**してください。**緑枠部**は削除しないでください。

また、お客様の環境に応じて**ドライブ名等のパスを修正**する必要があります。

**赤枠部**を使用される場合

```
Net use I: ¥¥192.168.0.1¥wilkinson wilcomm /user:192.168.0.1¥wilcomm /persistent:no
```

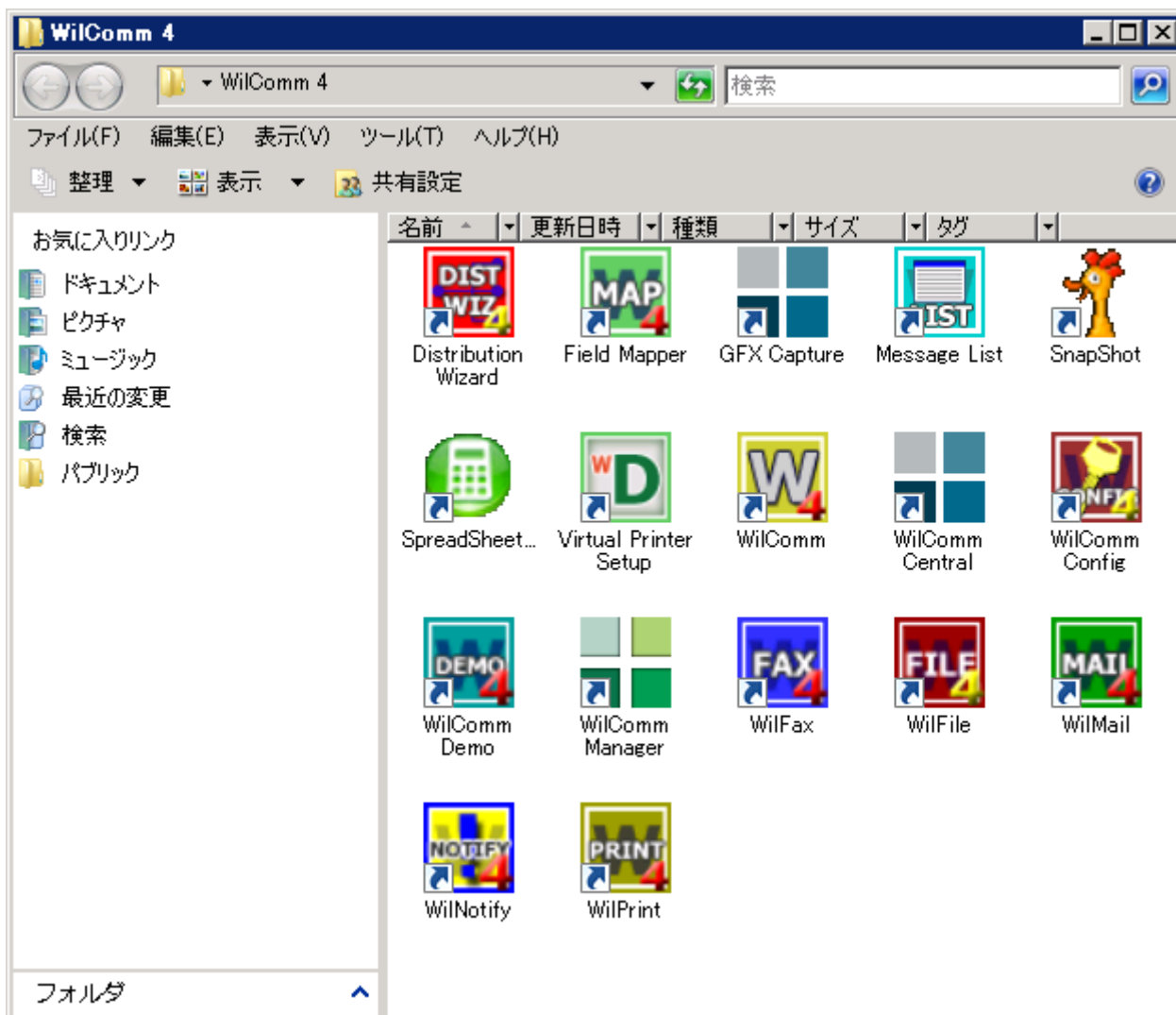
ドライブレターはお客様の環境で書き換えてください。

IP アドレス部は、お客様のホストのアドレスに修正してください。

修正が終了しましたら、保存してファイルを閉じてください。

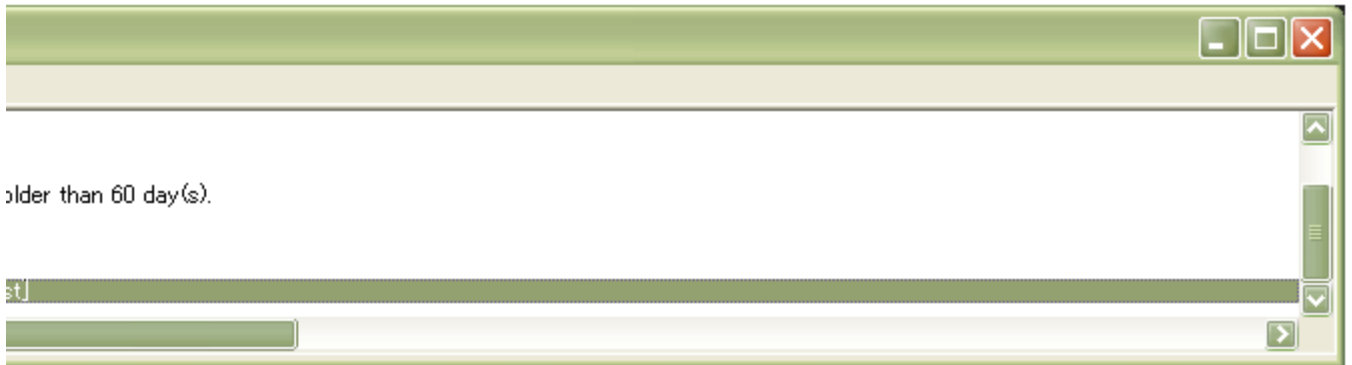
`WilComm Start.bat` の**ショートカット**を Windows のスタートアップ・フォルダに作成してください。

PC サーバーにおける各サービスの起動は、デスクトップ上にありますフォルダ「WilComm 4」にありますショートカットをダブルクリックすることでも可能です。



## PC Server のウィルコム停止方法

Wilcomm Server / WilMail / WilPrint / WilFile / WilFax どのサービスもウィンドウ右上の「×ボタン」で終了します。



或いは、タスクバーで右クリック→「閉じる」を選択してください。

